

平成18年度学術創成研究費 中間評価結果

研究課題名	生体パターン形成原理の実験的ならびに数理解析的解明	研究代表者名	近藤 滋
-------	---------------------------	--------	------

1 研究を推進する必要性について

推薦の趣旨に照らし、採択時以降の関連研究分野の学術動向を踏まえた上で引き続き研究を推進する必要性は高いか

- ア () 高い
- イ (×) やや高い
- ウ () やや低い
- エ () 低い

意見：
形態形成の分野において、理論と実験とをリンクさせた数少ない学際的研究で、研究の達成が強く望まれる。

2 研究の進捗状況について

(1) 当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか

- ア () 予定以上に進展している
- イ (×) 概ね予定どおり進展している
- ウ () やや遅れている
- エ () 遅れている

意見：
理論的、現象論的研究は順調であるが、その対となる実験的研究、特に、現象に關与する分子の同定、同定された遺伝子の機能解析等に、やや研究の遅れが認められる。

(2) 今後の研究推進上、問題となる点はないか

- ア () 研究経費
- イ () 設 備
- ウ () 組 織
- エ (×) そ の 他

意見：
遺伝子のスクリーニングをこれまで以上に進めることも検討してはどうか。

3 これまでの研究成果について

当初の研究目的に照らして、現時点で期待された成果をあげているか (又はあげつつあるか)

- ア () 期待以上の成果をあげている
- イ (×) 概ね期待された成果をあげている
- ウ () 期待された成果をあげつつある
- エ () 期待された成果はあがっていない

意見：
mutagenesis は時間がかかるので、その進展状況はまずまずと判定される。一方、理論と実験結果との間にギャップが横たわり、問題の統合的理解にはもう少し時間がかかる。

4 研究組織について

研究者相互に有機的に連携が保たれ、活発な研究活動が展開される研究組織となっているか

ア (×) 有機的に連携が保たれている

イ () あまり有機的に連携が保たれていない

ウ () その他

意見：
連携はよくとれている。

5 研究経費の使用状況について

研究経費は効率的・効果的に使用されているか

ア (×) 効率的・効果的に使用されている

イ () あまり効率的・効果的に使用されていない

ウ () その他

意見：

6 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	当初計画を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
×	A	当初計画どおり順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初計画より研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初計画より研究が遅れ、研究成果も見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

総合的な評価意見：

皮膚模様のパターン形成の機構に関する理論的、実験的研究が鋭意進められており、ネットワーク構築の完成を期待する。研究の独自性は高く評価される。ただし、理論的研究が優れている一方で、パターン形成に実際に関わる分子的機構の研究は、まだ理論に追いついておらず、この点に関しては、一層の努力が必要である。また、自然突然変異体だけの解析には限界がある可能性があり、tol2系の解析を更に進めることも検討してはどうか。